

編集後記

ひょんなことから2号続けて編集後記を書くことになりました。

9月の初旬の素晴らしい天候に恵まれた富山湾を眺めながら北陸の旅先の宿でこの原稿を書いています。北陸はすでに秋の気配が濃く稲刈りもはじまっています。いつも大都会のせわしない環境で生活している者にとって、日本の秋はこのようなものなのかなあと感じさせられる情景が一杯です。

このような景色や風俗とは別に、北陸にも着実にリハビリテーションが根をおろしつつあるのを感じたのも大きな収穫でした。しかし、リハビリテーションの関係者が、“こんな所に住んでいると、学会をはじめ色々な所で決って来ることで、もう一つ理解し難いことが多い。”という言葉が気になりました。巻頭言で峯島氏もいうように、情報を十分にチーム全員に理解してもらう必要性を痛感させられました。

この号は、障害者の日常生活はもとより社会参加にとって欠かすことのできない移動手段をとりあげました。個人住宅から公共交通機関まで多角的な構成が出来たと思います。日本でもこのような問題に対して着実な努力

がなされていることを大変嬉しく思う反面、日本全国がこのレベルに到達する日の一日も早いことを願うものであります。

研究と報告は、3編の論文を掲載することができました。そのうちの犬貝氏、窪田氏の論文は日常の臨床に密接に関係しているものです。また、畑野氏の論文は大変基礎的なものでありますが、今後の一層の発展を期待したいと思います。畑野氏の論文はコンピューターを駆使した論文ですが、最近は多くの論文でコンピューターを用いた分析が行われています。コンピューターで分析を行う者にとっても、論文によってその結果を読む者にとってもコンピューターの能力と限界を正しく知ることが強く要請される時代になりました。その意味からも、一頁講座のコンピューターの知識を十分に活用して欲しいと願うものです。

最後になってしまいましたが、2本建の講座は益々快調です。執筆の諸氏に心からお礼を申し上げ、今後の御努力をもう一度お願いしたいと思います。

(大川 嗣雄)

次号予告(第9巻第11号)

特集 脳性麻痺の在宅リハビリテーション

特集「脳性麻痺の在宅リハビリテーション」の

はじめに……………川崎医大 明 石 謙

在宅通園児の家庭療育の実態……………北療育園 山本恵子・他

脳障害児の在宅リハビリテーションと

保健所活動……………うめだ・あけぼの診療所 福島正和・他

学齢期の重度・重複障害児に対するリハビリ

テーション：在宅訪問指導から通級指導へ……………横市大 佐 鹿 博 信

精神遅滞児に対する家庭療育指導……………島根・中央病院 木佐俊郎・他

成人脳性麻痺の家庭および社会

生活……………大阪市・身障者更生相談所 花岡俊行・他

巻頭言 リハビリテーションと教育……………弘前大 福 田 道 隆

研究と報告 脱神経筋に対する低周波刺激の影響に関する

実験的研究……………広大・整形外科 畑野 栄 治・他

片麻痺患者のH波の最大振幅(M)/刺激強度(V)

比とアキレス腱反射の比較について……………川崎医大 長 尾 史 博・他

紹介 動作訓練のための EMG Biofeedback 装置の

開発……………製品科学研・人間工学 佐渡山亜丘・他

身体障害者福祉法改正の動向とその背景……………宮城県拓杏園

講座 リハ医のためのリウマチ・膠原病入門

11. MCTD と overlap 症候群……………慶大・内科 安 倍 達

脊柱 5：脊柱・脊髄の循環動態……………自治医大 大 井 淑 雄・他

一頁講座 リハにおけるマイクログルコンピュータの応用

11. マイコン応用例(足圧分布の変化)

……………労災義肢センター 土 屋 和 夫

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 川 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
沢 村 誠 志
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
武 智 秀 夫
田 中 照 子
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)